

福島県PTA連合会会報
第14号_S58.01.10

大会主題

—明日を担う心豊かな子どもの育成と
創造的なPTA活動の展開—



第三十一回福島県PTA
会津若松大会は九月十
七日、十八日の二日間に
わたって東山温泉を中心
に県内各地区PTA会員
二千三百余名を集めて盛

第三十一回福島県PTA 会津若松大会終わる

大に開催された。
紅葉と会津盆地を展望
できる東山温泉で六分科
会にわかれて熱心に討議
され、明日をにう青少年
の健全育成ならびに、
我々PTAの今後のある
べき姿に対して明るい見
通しを持つことができた
すばらしい二日間であっ
た。

「明日を担う心豊かな子
どもの育成と創造的なP
TA活動の展開」を大会
主題にしたことは現代日
本教育充実発展にはまこ
とに的を得たものであり
それだけに各分科会での
発表、協議、指導助言は
すばらしく目を見はるば

かりであった。
二日目の講演には、前
会津若松市長、高瀬喜左
衛門氏をお招きし「教育
について想うこと」と題
して一時間半にわたるご
講演をいただき、今と昔
の教育ならびに子育てに

心豊かな子ども の育成と 創造的なPTA

第一分科会

「創造的な活動を積極的
に展開するための組織・
運営のあり方をどのよう
に考えたらよいか」

○発表者 門馬庄三氏
安達郡岩代町立田沢小
学校PTA

「過疎化・共働きなど、
社会状況の変化に対応し
たPTA活動を展開する
ための組織と運営をどう
すればよいか」

○発表者 天野淳乗氏
相馬市立桜丘小学校P
TA会長

「過疎化・共働きなど、
社会状況の変化に対応し
たPTA活動を展開する
ための組織と運営をどう
すればよいか」

○発表者 二瓶 公氏
北会津郡北会津村立北
会津中学校PTA

「会員の積極的な参加を
目ざす年間活動計画をど

う編成し運営すればよい
か」

○発表者 裏沢信子氏
福島市立渡利中学校父
母と教師の会

「魅力あるPTA活動を
展開するために、組織・
運営のあり方をどのよう
にしたらよいか」

◇協議会の内容

過疎化・過密化、共働
き化の中での問題はPT
A組織運営ばかりでなく、
社会全体の問題となっ
ているが、PTAにおいて
も組織の拡大ばかりでな
く本来の役割を考えてみ
る必要がある。

PTA本来の姿として
は、○子どもを幸せにす
るための会員の学習の場
である。○学校教育に対
する理解と協力。○地域
環境の浄化。○校外生活
の補導。○教育に対して
の正しい世論づくり等の
中で地域の実態に即した

について比較されながら、
今後の教育についての適
切なる示唆をいただき感
銘を新たにしたい。

活動をすることであり、
体質の改善・会則の検討
も必要である。

第二分科会

「会員の教養を高める研
修活動をどのように展開
すればよいか」

○発表者 江尻證太郎氏
いわき市立小名浜第一
小学校PTA会長

「PTAの研修活動を活
発にするためにはどのよ
うな工夫をしたらよいか」

○発表者 大内秀一氏
伊達郡川俣町立山木屋
小・中学校PTA

「新しい時代に対応する
ための知識や教養を身に
つけるための研修を、P
TA活動の中にどう取り
入れ学習したらよいか」

○発表者 湯澤 洵氏
石川郡石川町立石川中
学校PTA

「新しい時代に対応する
ための知識や教養を身に
つけるための研修を、P
TA活動の中にどう取り
入れ学習したらよいか」

○発表者 大野 仁氏

耶麻郡熱塩加納村立立

北中学校PTA副会長

「会員の教養を高めるための研修活動の内容と方法はどうかあればよい」

◇協議会の内容

追求的な課題を明確にして活動・研修が行われている。今これが問題なのだという課題意識を持ち、相互に資料を提供するような方向で進むことが望まれる。

家庭教育学級を持つ場合、その内容として欠かせないことは、青少年の健全育成である。読・ライフワーク等、子どもの発達段階と、地域の課題との関連等でおさえていく必要がある。

第三分科会

「子どもの健全な育成を図るための家庭教育をどのように充実させたらよい」

○発表者 白坂政雄氏

東白川郡塙町立塙小学校PTA

「心豊かな子どもを育てるための家庭教育はどうかあればよい」

○発表者 藤田喜代寿氏

西白河郡表郷村立表郷中学校PTA会長

「家庭教育の充実を図るためのPTA活動をどのようにすればよい」

○発表者 長嶺忠明氏

大沼郡会津高田町立東尾岐小学校PTA

「家庭教育の本来の機能回復のために、PTAは学習の場と機会をどのように確保し充実させたらよい」

○発表者 菅野カツ子氏

伊達郡霊山町立霊山中学校PTA

「家庭教育の本来の機能回復のために、PTAは学習の場と機会をどのように確保し充実させたらよい」

◇協議会の内容

「心豊かな」とはどんなことなのかを協議し、結局は、思いやりのある心ではないかとした。

「健全育成」を非行化防止対策等の問題としてのみでなく、教育そのものとしてとらえ、子どもたちの良い面、明るい面などにも目を向けた見方、考え方をもちべきではないか。

子どもの生活の基盤は家庭であるので、家庭教育の機能を見直し、一人前の社会人として自立できるように育てるのは親の責任であるので、よい家風を築き愛情をもって接したい。また、郷土に愛着を持たせ、特色ある地域の子どもに育てるために組織的に地域活動を進めることも大切である。

第四分科会

「心豊かな子どもを育成するための文化活動をどのように進めたらよい」

○発表者 林 敏男氏

南会津郡伊南村立伊南小学校PTA

「地域社会をよりよく理解するための学習をPTA活動にどう取り入れ進めればよい」

○発表者 添田イキ子氏

郡山市立安子島小学校PTA研究委員副委員長

「子どもたちにふるさとの文化や地域社会を愛する心を育てるための活動をどう進めたらよい」

○発表者 武田千鶴子氏

双葉郡富岡町立富岡第二中学校PTA副会長

「心豊かな子どもを育てるために、子どもたちの文化活動をどうすすめた

らよい」

◇協議会の内容

文化活動を進めるについての文化の概念はむづかしい。生活そのものも文化であり、PTA活動そのものも文化活動といえる。文化（民話、郷土芸能など）について形だけを伝承するのでなく、その精神も伝承させたい。公民館で行っている青少年のための事業とPTAが連携して子どもを参加させることも大切である。子どもたちを文化活動に参加させ、豊かな心を育てるには、

○集団に所属させることにより、自分の役割を認識し、意欲を持たせる。○自然とのふれ合いを通して美しい心情を養う。

第五分科会

「健全育成のための地域活動をどのように展開すればよい」

○発表者 仙波寿一氏

河沼郡会津坂下町立広瀬小学校PTA

「地域社会の中で、健全育成のための実践活動を推進するためにはどうすればよい」

○発表者 有賀保二氏

須賀川市立阿武隈小学校PTA

「子どもたちの安全確保・非行防止のための地域活動をどのように広げていけばよい」

○発表者 鈴木義孝氏

田村郡三春町立中郷小学校PTA会長

「子どもたちの豊かな心を育てるには、



なくす。○問題をもつ子の親の会合等への参加の問題。○親子共働きのふれ合い。○各種団体・機関との連携。○PTA活動の限界をうめる工夫等が必要である。県の重点施策である青少年の健全育成のための市町村民会議に対するPTAの果たす役割は何かをとらえてほしい。また、PTA会員として親権を十分に行使しているかどうか親としてのあり方を認識することが大切である。

第六分科会

「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中でどのように理解し、協力すればよい」

○発表者 瓶子晃子氏

福島市立福島養護学校PTA

「心身に障害をもつ子どもの教育に対する正しい理解を、PTA活動の中でどのように進めたらよい」

○発表者 古川兼良氏

いわき市立平第三小学校PTA

「養護教育に対する正し

い理解と協力活動をPTAはどのように進めたらよいか」

○発表者 吉原勝次氏

県立郡山養護学校PTA会長

「障害児教育充実のためにPTAが果たすべき役割・協力体制はどうあればよいか」

◇協議会の内容

養護学校教育の義務制により、従来の教育の概念は変わった。子どもの成長発達を促す働きかけのすべてが教育であり、教育そのものが目的性を持つものである。

障害児教育も健常児教育も基本的には同じでありながら区別はない。

健常児を持つ親と障害児を持つ親とが相互に理解しあう努力を具体的な手だてとしてPTA活動の中に工夫していくことが大切である。また、教育の責任者は親であり、学校教育は親の責任を専門的な立場で助力し協力する立場にある。従って学校教育の目標や指導方針等を改める場合、親の意見をとり上げると同時に、卒業生の意見もとり上げて改めるべきである。

会津若松大会を省りみて

大会事務局 高畑睦雄

フィナーレを飾る万才三唱が県営会津体育館の大鉄傘にこだまする中で第三十一回福島県PTA研究大会会津若松大会は大成のうちにその幕を閉じた。

思えばながい準備の間であった。

準備委員会を組織し、スタートしたのは昨年の飯坂大会直後のことである。事務局の開設、一年間を見通した大会開催までのスケジュール作成、大会主題、分科会テーマ、研究の視点原案の審議、とにかく準備委員会の仕事は、その後も予算案、大会開催要項原案の審議等々、枚挙にいとまがない程であった。

組織をよりよく機能させるために各係メンバーの構成には気を配り、各係の役割分担、仕事内容

の吟味、確認、連携と調整等についても十分時間をかけて話し合った。

お互いに多忙な身でありながら次から次へと精力的に仕事を消化するこ

とができたのは、飯坂大会に迫いつき、追い越

せ〃という合言葉のおかげであった。飯坂大会という良い手本、目標があったことに感謝したい。

準備委員会を実行委員会に切り換えたのは、五月上旬であった。新体制のスタートである。

順調に進んでいた準備も、六月になって急変した。会津若松市内の交通事情の悪化、駐車場問題

などが大きな原因で全体会場の変更を余儀なくされた。結果的には良かったのであるが、各連PT事務局並びに会員各位には少なからぬ迷惑をおか

けた。深くお詫びしたい。

あれから一年、会津若松市連Pの総力を結集し万全の体制で大会当日を迎えた。ことしは冷夏とさわがれ、雨の日が多かった。大会当日の天候については正に神だのみの状態であった。ところが大会の二日間は、文字通り雲ひとつない日本晴れ。県内各地からご参加くださった二千三百余名の皆さんと共に大会を開催できたことは誠に幸

せであった。

さて、つぎに大会運営を担当して気になった点をいくつかあげてみたい。三十一回の歴史をもつPTA研究大会は、県内各地区連Pの大変な努力による持ち回り制で毎年盛大に開催され、大きな成果をあげて今日に至っていることは周知の通りである。しかし、県・市町村からの補助金等が従来のように期待できなくな

った現状において、主催者である県連Pから研究大会開催主管連Pへの補助金の予算計上額が三十万円というのは如何なものであろうか。いろいろ

ろな事情により県連Pの台所も火の車であることはわかるが、開催地連Pに〃おんぶにだっこ〃の状態からは、一日も早く脱皮すべきであろう。

資金のやりくりがむずかしいのであれば、研究大会開催のあり方を検討してみることも必要ではなからうか。いずれにせよこのままの状態では、近い将来大会開催返上などの問題もおこりかねまい。

つぎに、県連Pの組織の強化充実に関わる問題であるが、やはり福島県PTA研究大会と銘打って開催する限りは、県内で開催しようとも県連Pの責任において、参加会員が二千名を上回るよう主管連Pを支援すべきである。その裏付けがあ

ってはじめて予算案の作成が可能になり、主管連Pのやる気も旺盛になるのである。そうした県連Pの努力は、とりもなおさず組織の強化充実につながることを銘記すべきであらう。大会の招待状も、出席してほしい方に限定し、出欠の確認を必ずとるようにしたい。

もうひとつは研究大会参加の姿勢についてである。ごく一部の会員が第二日目閉会式終了を待ちかねたように、バスで何処かへ姿を消してしまっ

た。自分たちの研究大会なのである。物見遊山丸出しの態度は、準備にあ

けくれた主管連Pに対して失礼以外の何ものでも

あるまい。

何はともあれ会津若松大会は終わった。関係各位の絶大なるご支援ご協力に心から御礼を申し上げると共に、次期大会開催担当の原町市連P各位の今後のご活躍をお祈りするものである。

第三十二回大会は、原町市で行われます。県連Pのますますの発展充実を期待して今から楽しみに待ちたいものです。



△北から南から▽

PTA活動の紹介

子どもの幸福を願って

福島市小中学校PTA連合会

我が福島市連Pは、県連P会長を兼ねる菅野久俊会長の統率のもと、単P七〇校（小学校四七・中学校一九・福大附属三）会員数三万一千人を擁するものである。

会のモットーは、「全会員参加による、未来をきり拓くPTA活動の推進を。」昨年の東北PTA研究大会の余勢をかって、と、云えば大袈裟だが、あの協力体制を本年度の活動に生かそうという気構えである。

年間を通じ主たる活動は、五つの専門委員会を中心に活発に進められ本会活動の原動力となっているので、そのようすを紹介する。

◇財政委員会

教育関係予算の実態調査と予算の確保に関する活動を中心にする。本年度は地域単Pの問題点を集約検討し、教育予算確保の陳情文を作成、関係機関へ陳情すべくその準備中である。

又、県立少年自然の家を福島市への設置と継続的に働きかける運動も確認されている。

◇成人教育委員会

会員相互の衆知を結集し会員の教養を高めることをめざして、研究主題に基づく研究協議会の開催に委員会の苦勞がある。この会も本年度で二十五

回を迎え、年々その成果は会員から高く評価されている。特に協議会で話し合われた話題は各単Pに持ち帰られ、単Pの推進力となっている。この事は市連Pの組織を有効に生かした活動の表われといえるのである。

本年度は、過去の運営の形態を踏襲し、講師招へいによる対話集会をということで、「雷おやじの会」のメンバーによって十一月十七日に開催された。

講師は、岩手県の分校で地域の生活にまみれ子どもたちとともに教育に情熱を傾け、現在は作家として活躍されている三好京三氏と、衆議院議員である八代英太氏の二氏が好意的にひき受けてくださり、会を盛会に終えることができた。

◇厚生委員会

会員の厚生に関する活動を推進するのがこの委員会である。二十五回統一ソフトボール大会は各単Pの融和と協力により結成されたチームによって、単Pの名譽をかけ激突する。本年度は八月八

日、二十二日の両日炎天下最高の野球日和に恵まれ、小学校四十六チーム中学校二十二チームによって優勝が争われた。年々チームの実力も伯

中白熱した試合が展開され、小学校決勝戦は延長にもつれこむ程であった。各チームPTA会員らしくマナーもよく審判団からも好評である。大勢の会員や選手が家族ぐるみの中で、全力で投打に活躍する父親の姿を目のあたりに見た、子どもたちにとってもどんなにか今後の生活の励ましになったことと思われる。

◇補導委員会

最近の青少年問題について関係機関はその対策に苦慮している所であるが、地域社会の中心的活动を進めているPTAとしては責任の重大さを感じる所である。

その意味から各単P関係機関と連絡調整を図りながら、リーダーシップをとり青少年の健全育成を願って活動している。又、委員会独自の活動として、毎年開催される

「わらじ祭」「花火大会」「晩参り」には各委員が組織的に直接補導に当たっている。これらの活動は補導だよりとして、年数回発行されている。

◇広報委員会

会の動向をつぶさに広報する。情報化の現況下必要欠くべからざるものである。その期待に応えるべく事務局を中心に各委員が一丸となって、年四回会報の発行に当たっている。

限られた予算の中で密度の濃い、そして、PTAに相応しい紙面にするため原稿依頼から割付けまで苦勞している。

本会の組織は、各単Pの会長によって構成されている。世間一般にささやかれていることは、とかくこのような会は龍頭蛇尾に陥りがちであると。役員はじめ各委員は単P会長の立場で、常任理事会、各委員会に所属し、計画から運営まで単Pの経験を生かし全市的立場で事に当る。そこには広い視野でPTAを見る目が養われ、それを又単P活動に生かしてい

くというサイクル的なつながりの積み重ねをすべく努力しているのである。この実績は、本会主催の諸行事への会員の出席率の良さでも充分伺うことができる。

本会は、その他関係機関との連携を密にすべく各団体で開催される、諸行事へ共催や積極的参加を図っているものもある。その一つは、福島青年会議所主催による「教育問題市民会議」がある。本年度は、しつくと体罰をテーマに取りあげ多数の市民による集会となり、意見交換が行なわれ成功を収めている。

その二は、福島市の明日を担う青少年が心身ともに健やかな成長を願って市が主催した「福島市青少年健全育成推進中央大会」には、社会教育の一環を担う親の集団として割当てを上まわる、会員の参加によって会を一層盛りたてた。

ついで、今後共PTA本来の姿を見失うことなく、益々の発展を願うものである。

将来を託する子どもの育成のために

二本松市立杉田小学校

一、地区の概況

本校は二本松市街地から郡山方面に約四キロ大玉村に隣接する地区で国道四号線、東北本線（杉田駅）が縦断、東は阿武隈川に接し、西に安達太良山が眺望できる農村地域である。

近年、国道沿いに企業の立地が進み本学区も兼業農家が増え、また会社員の転入者も増え本学区の戸数は八一戸、人口三、六四〇人となっている。

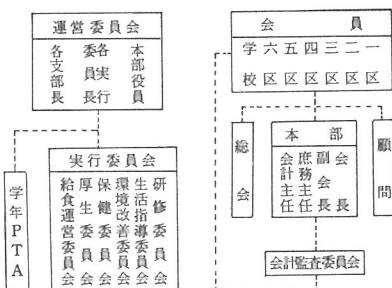
二、本校のあらまし

本校は明治六年に創立し同三四年に高等科が併設され、近郷からも多数が通学しており、昭和五四年本校旧校舎が改築に至るまで、一〇九年間の歴史をもつ校舎と別れ、五六年度から新校舎でスタートした。

校舎改築にあたり地区民の校舎改築協力会が組織され、学校教育環境及び教育設備の充実等にPTAと協力のもと実施し

てきた。

三、本校PTAの活動
(1) 組織は次のようになっています。



(2) 運営

本校は運営委員会、実行委員会にわかれ、会長、副会長、委員長等が中心となり活動している。

(3) 事業計画

本校の主な事業計画と実施について

① 研修委員会

父親学級では学校教育に対する理解を深めるため年一回日曜日に実施。授業参観、講演会、学級懇談、給食試食、学年対抗球技会等

一日中、会員相互が親睦をかね研修を図っている。

また、先進校を視察しPTA活動状況、教育施設等を参観し、それにより得たよい面をとりいれたりしている。

授業参観等も学校と連絡をとり年十回ほど計画し、実施をし成果を挙げている。

② 生徒指導委員会

通学指導、部落懇談会、夏季・冬季休業中の指導、非行および交通事故の防止につとめているので、非行および交通事故もほとんど見られない。

③ 環境改善委員会
新校舎移転に伴い校舎改築協力会の協力による教育環境の整備充実につとめ今年度は花だんづくり、奉仕作業四回、プール清掃等を計画し実施してきた。

④ 厚生委員会
本校の特別会計である廃品回収、ベルマークの整備等が主であり廃品回収は年四回で約二五万円、ベルマークで約三〇万円の収益を挙げ教材教具の充実にあてている。

⑤ 給食委員会

給食試食会、給食のようす参観、給食センターの見学等を計画し教師父兄が一体となり児童の体力の向上に取り組んでいる。

(4) 予算

○ 本会の予算

六一六千円

○ 特別会計（設備費）

一、二六一千円

○ ベルマークによる設備（実績）

約三〇〇千円

四、杉田小学校校舎改築協力会の事業

(1) 校舎改築に伴う記念事業と教育環境の整備充実を重点に事業を実施してきた。内容としては

○ 記念碑、記念誌、築山づくり、花だんの整備、遊具、移転作業、竣工式等

(2) 予算

五、〇〇〇千円

以上本校PTAの活動の概要を記しました。

本年度は県PTA若松大会において表彰を受けました。

私たちPTAは将来を託する子どもの育成のため全力をつくし、学校と

家庭がお互に協力しあい連携のうえにたち一人一人の児童の健全育成をはかっています。

各委員会の連携を密にした活動で成果を

福島市立福島第一中学校

◇総務委員会

今年度の事業計画に基づき、活動が行われております。

① PTA歓送迎会

これは五月二十九日、「中合」に於いて各委員のご協力を得て百六十余名の参加者があり、盛大に実施することができました。

② PTAのしおり作成
これは、委員長、副委員長、各学年より一名づつの担当者を選び作成にあたりました。

七月中旬印刷が仕上がり夏休み前には、各家庭に配布されましたが、より一層充実した内容は一年間有効に活用されていくことと思います。

③ すずかけ祭への協力
恒例のすずかけ祭が十月二十九日（土）に実施され、今年もPTA

A会員の作品展示室「趣味のコーナー」が設けられ幅広い作品の展示がありました。

これは教養委員の主催でありましたので、総務では、協力という側面から参加いたしました。

これらの年次計画に従って総務委員会は遂行しております。

これから行うものとしては、PTA奉仕作業、市連P研究協議会への参加等があります。

PTA奉仕作業については、現在校舎改築中でもありますので落葉集め学校内美化作業をすすめてまいりたいと思います。

市連P研究協議会参加につきましましては、後日、本部よりの参加要請のあり次第、一人でも多くの参加者を呼びかけて一日実のある勉強をさせていただきます。

ただたく思います。

親が研修の機会を数多

く持ち、自らを高める努力をすることは、望ましい事だと思えます。

以上、現在後期に入り各委員会との情報交換、親睦を保ちながら、美しい福島第一中学校にvarietyある改築工事中を垣間見ながら、そんな校舎に似合った子ども達の明るい表情を心の糧に、会員同志の「和」を深めるべき努力に励んでおります。

◇教養委員会

教養委員会は、次の三つの事業を指標に活動を推進しております。

一、「鈴懸」の編集と発行

二、教育講演の開催

三、鈴懸祭への協力参加

先ず「鈴懸」の編集と発行ですが、七月、十二月、三月と学期にあわせて三回予定しております。紙面には、共通課題としてPTA各委員会日より、学年日より、ふれあい広場、PTA会員寄稿、学

校側より生徒作品、校内表彰等があります。

第一回の鈴懸の発行はすんでおりますが、PTA各委員会日よりとして本年度選任されました総務委員会、厚生委員会

補導委員会、教養委員会のそれぞれの委員長さん方の抱負と活動計画などを紹介しました。

十二月には、PTA各委員会の活動実践、あるいは会員寄稿、生徒に対する冬休みの生活のあり方等を中心に計画しました。

三月には、PTA各委員会の一年間における総合反省、卒業生に贈る言葉、進路指導の状況等を中心に計画しております。これが鈴懸の主な内容であります。

次に教育講演の開催ですが、年一回、講師を招いての講演です。本年は九月三十日に一中体育館において、福島高等学校飯島護校長先生による「中学生の父母に望むこと」と題し講演があり、受講者は約三百名で盛会裡のうちに終了しました。

次に鈴懸祭への協力参加ですが（鈴懸祭とは一中における文化祭です）趣味のコーナーを設け、先生方をはじめ、常日頃家庭におけるお母さん方の趣味を生かした、生花手芸品などを一堂に集めての展示コーナーを十月

二十九日、三十日に開催されました。

教養委員会としては、このほかに、県連P研究協議会への参加、市連P協議会への参加などがあります。

以上が我が一中における教養委員会の活動であります。先輩が軌道に乗せた事業をより一層充実させ、実のあるものにしたと考えております。

◇厚生委員会

はじめに、厚生委員会の任務を紹介いたします。

「厚生委員会は青少年の福祉に寄与する計画にたずさわるとともに会員の厚生活動にあたる」とあります。これを受けて本校の活動状況を二、三あげてみます。

まず年度はじめに、会員の体力向上充実と会員相互の親睦を図るためにソフトボールクラブ及びバレーボールクラブ会員を募集しクラブ活動を実施しています。

ソフトクラブは毎週一回早朝に学校のグラウンドに集り練習しております。バレーボールクラブは毎週一回夜間に練習活動しています。

またこれらのクラブの代表者が市連Pの各種大会に出場し活躍しております。ソフトクラブは一

昨年度市連Pで優勝し、本年度はベスト4まで進出しましたが惜敗してしまいました。

バレーボールクラブの活躍もめざましく、昨年度は市の家庭バレーボール大会で款闘賞を受賞しております。本年度は優勝をめざして夜遅くまで練習しております。

次に本会では小中学校の連携と親睦を図るために、中学校の学区内小学校（四校）のPTAと毎年「すずかけ杯」争奪のソフトボール大会を開催しております。いつも若さの小学校に優勝トロフ

イはもっていかれますが気力では中学校会員がまさっていると思われ、和気あいあいのもので会が進められています。

最後になんといっても本会の最大の行事は、年一回学年対抗校内親善球技大会であります。まず、全PTA会員に呼びかけて学年別に、ソフトボール、バレーボールのチームを結成して、

学年対抗試合をいたしております。

本年度も九月に実施しましたが、出場できなかった会員や生徒の声援のおかげで熱戦がくりひろげられました。

今後は子どもと一緒に出来る球技大会を計画しています。

◇補導委員会

一年間の活動計画

五月二十九日（土）

中間試験後の街頭補導

七月十日（土）

期末試験後の街頭補導

七月一七日

講演「非行少年の実態」について

八月一日（日）

わらじ祭りの街頭補導

九月九日（木）

黒岩満願寺祭礼の街頭補導

十月九日（土）・十日（日）

中間試験後及び稲荷神社祭礼の街頭補導

十二月四日

期末試験後の街頭補導

一月二十九日（土）

三年生期末試験後の街頭補導

二月四日（木）

黒岩満願寺祭礼の街頭補導

三月五日（土）

一年生二年生期末試験後の街頭補導

その他に、福島市小中PTA連合、福島市「少年を非行から守る日」、市大会、福島市青少年健全育成推進中央大会、某地区の「子を持つ親の集い」、又「補導」に関連するような会には、時間のとれる補導委員が出席しております。

我が校の活動の中で、去る七月一七日に実施しました「非行少年の実態」については、福島警察署防犯課少年補導係の水谷さんをお招きし、一時間にわたっての講話をして頂きました。一中PTA六百余名の会員に静聴して頂き、その後に、「良いお話だった」「私も子どもに対して改めなくては」等と伺い、係り一同ホッとした次第です。色々な会に出席し、他機関との連携を図り、他校の生徒の様子、他地域での活動を知り、子どもを通して見る現代社会の動向を、私達はどう受け止め、今、親は子に、何をなすべきか？ 子ども達を「非行」から守るに



創立30周年記念式典

は、どうしたらよいか等と考えさせられました。大変多感な時期に入っているこの子ども達が、楽しく、そして充実した中学時代を送れるように、私達補導委員が少しでもその役に立てればと念じつつ活動しております。

生徒指導の充実を

中島村立中島中学校

本校PTAは、昭和二十六年発足以来数多くの事業にとりくみ、本年九月の東北PTA表彰を含めて過去三回優良PTAの団体表彰を受けている。

現在会員は、一致協力し、会の発展に努力しているが、以下活動の状況を簡単に述べてみたい。

一、学年委員会

1 学年委員会の組織
一年二年生は四名で構成し、三年生は六名からなる。各委員は四月当初に選出され、任期は一年

間である。

2 学年委員会の活動
(1) 保護者の企画運営

保護者会は全学年をとおして四月の最終日曜日と月の最終日曜日の年二回開かれる。保護者会をより有意義なものとするため事前に学年委員会を招集し、日程、提出議題運営等について細かい協議がなされる。

本年度第一回の保護者会は四月二十五日に開催された。なお、保護者会の出席率は日曜日のせいもあって毎回八十五%から九十%は下らない。

(2) 臨時の学年委員会
三年生においては二期から三学期にかけて進路関係、卒業に伴う諸事業の協議で数回委員会を開く。

二、教養委員会

教養委員会は研修視察

親子座談会についての企画、運営を受け持つ。

1 研修視察旅行

会員相互の教養と親睦を深めPTA活動に役立てることを目指し、毎年六月に実施。今年は文部省生徒指導研究指定校でもある桑折町立釧路中学校を視察、本校も研究校の立場から研修を積むのに効果的であった。

なお、昨年は茨城県大子町立大子中学校を、また一昨年は栃木県馬頭町立馬頭中学校を視察した。

2 方部懇談会の開催
夏休み、冬休みに入っている初日、各方部ごとに父兄、生徒、教師による親子座談会が催される。

各地区の公民館を利用し午後五時のときを、PTA側では方部長が、生徒側では校外生徒会の会長がそれぞれ責任者、司会者となって休み中の生活等について話し合い協議する。一〇〇%の出席率で終始なごやかな中にも厳しさのある座談会となかなかの好評である。

三、補導委員会

補導委員会は親子球技大会、白河だるま市補導の広報車による街頭指導の

各活動について企画し、運営にあたる。

1 親子球技大会

今年で第十二回を迎えたこの大会は本会活動の最大行事である。生徒はほとんど全員、父親、母親も九〇%が選手、方部対抗の形式なので選手が決まれば朝夕の仕事の間親子ともども練習に汗を流す。本年は七月三十一日(土)に行われた。



親子球技大会

○種目

・男子ソフトボール
・女子家庭バレーボール

○参加チーム

・二十三チーム
○選手のみ組合せ
・父親・母親・生徒
○練習場所、日時
省略

なお、選手選考、練習の具体的な方法などは教

養委員会主催の方部座談会終了後に協議するのが通例となっている。

2 白河だるま市補導

恒例の白河だるま市には近隣近郷より老若男女を問わず大勢集まって賑わいを見せる。本校中学生も毎年多くの数が見学におしかけ冬の風物詩を一日楽しんでくる。

こうした催しものに健全な姿で参加できるように、補導委員全員は村バスで現地に行き、生徒の街頭補導につとめる。その甲斐あってか不良じみた行は本校生徒にあつては現在まで全く見当たらない。

3 広報車による呼びかけ指導
夏、冬の長期の休業中学区内の小学校と連携し数回にわたって村広報車を利用し、街頭から呼びかけによる交通指導、非行化防止、家庭への協力依頼をする。軽快な音楽で始まる呼びかけ補導は中島中学校PTA、年中行事の一つとなって村民から暖かく見守られている。

4 盆踊り補導

地域がらお盆を中心に

盆踊りの行事が各部落で催される。小中学生の参加は九時までとなっており、方部の補導委員が献身的に指導にあたる。

四、広報委員会

会報をおとして会員相互の交流をモットーに年四回、五月末日、夏季・冬季休業前日、そして卒業式当日、タイプB4両面刷りが既に三六号まで続く。

編集委員会は年五回、校正委員会が四回それぞれ開かれ運営にあたる。編集の方針として「魅力ある会報」を前面に出し、そのため内容も出来るだけ精選し、活動の様子をPTA・生徒・教師の面から記事を募集するようつとめている。会員の声といった自由欄も設け、少しでも親しみのもてるよう努力している。

五、整備委員会

ずっと続いていた村有林の下刈り作業、その益金を生徒の図書購入費へ充当し、しかし、二年前この活動は中止となり現在は学校の環境整備が整備委員会の主な企画となっている。

本年度は七月四日、日

曜日八時から正午までの午前中、一二〇名による奉仕作業を実施、樹木の剪定、ベンチの設置、バックネットの支柱建など予定したことがすべて終了。二度目は十月二十三日(土)に行われ、前回出席できなかった五〇名により防球ネットのはりかえ、樹木の移植などの作業をした。

六、その他の活動

1 創立三十周年記念事業の達成

中島中学校の創立は昭和二十七年四月一日、昨年は満三十周年、それを記念すべく事業が計画され十月二十五日にはささやかな記念式典が催された。事業達成のために実行委員会を発足させたが、すべてPTAの組織を活用し重複をさけ無駄を省いたため、計画はスムーズに運ばれた。

(1) 記念事業の実施

施設設備の充実

○ピアノ、管楽器の購入

○図書館蔵書の拡充

○テニス専用フェンス

○の設置と柔道用た

みの新調

(2) 記念植樹による環境

の設備

(3) 記念碑の建立

(4) 記念誌の発刊

(5) 記念式典の挙行

四月下旬に実行委員会発足、五月中旬に事業計画立案、六月上旬計画に沿って活動開始、そして十月下旬の記念式典と事業達成までわずか六か月、実行委員をはじめ、PTAの骨身惜しまない協力が効を奏し、記念事業の計画が見事実現した。

2 研究指定校への協力

本年三月中島中学校は文部省より生徒指導の研究推進校の指定を受け、現在、学業指導を中心に研究が続けられている。PTAとしても学校との連携を一層密にしなから、研究推進のために積極的に協力している。

PTAの役割と活動

みんなのPTAより

「みんなのPTA」は昨年六月県教育委員会よりPTA研究資料として各学校へ配布されました。その中から活動をより効果的に行うために大切なことをここに掲げ再確認してみたいと思います。

「PTAの役割」

最近、少年の非行が低年齢化し、悪質化しており、その傾向は都市部、郡部を問わず広域化し、しかも、普通の家庭の子弟に多いなど、どの地域にも発生しかねない状況にある。従って、自分の子どもがいつ、どんな形で係わりを持つか予測できないなど、児童生徒の健全な成長にとって好ましくない情勢にある。

④家庭教育、学校教育、社会教育の連携

など、さまざまな施策の充実と相互補完が重要であり、今後一そうの努力が必要である。

児童生徒の健全な成長に大きな係わりを持つているのが父母であり、教師である。この両者が協力して指導にあたってこそ児童生徒の健全な成長が図られるのである。

この両者の会であるPTAの活動に大きな期待がよせられるのは当然のことである。

「PTAの目的・役割」

父母と教師の会(PTA)の目的・性格については、昭和四十二年六月二十三日に出した社会教育審議会の報告「父母と先生の会のあり方」で次のように示している。

①学校および家庭における教育の理解とその振興

②児童生徒の校外における生活の指導

③地域における教育環境の改善

また、昭和四十六年四月三十日に出された社会教育審議会の答申の「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方」

かるため会員相互の学習その他必要な活動を行う団体である。

父母と教師の会(PTA)の目的は、「児童生徒の健全な成長をはかる」ことにある。児童生徒の健全な成長をはかるためには、学校と家庭と社会とがそれぞれの責任を分担し、協力し合うことが大切であるが、特に児童生徒の教育に直接責任を有する学校と家庭の協力体制が必要である。

この協力体制は、さらに地域社会における児童生徒の教育についても重要な役割を果たすものである。

さらに、この父母と先生の会(PTA)の目的達成のために、次のような活動を行うべきことを示している。

①学校および家庭における教育の理解とその振興

②児童生徒の校外における生活の指導

③地域における教育環境の改善

また、昭和四十六年四月三十日に出された社会教育審議会の答申の「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方」

編集後記

◇明けてしましておめでとうございます。本年も前進するPTAを自覚してがんばりましょう。

◇創意工夫しながら地域の実態に合った活動をしてみましょう。

◇心の豊かな子どもを育成するには、先ず私たち親が心を豊かにすることではないでしょうか。

◇会報のために玉稿をお寄せ下さった各学校、関係者に厚くお礼申し上げます。(水保小・加藤)